

6/25 朝版

同志国軍支援の 専門部署新設へ

外務省、資機材提供窓口に

外務省は、日本の同志国軍を支援する枠組み「政府安全保障能力強化支援(O-SA)」が四月に創設され

規模や支援対象国の増加が見込まれ、専門部署が必要と判断した。複数の関係者が二十四日、明らかにしめた。ただ政府は同志国の定義を明確にしておらず、他國軍への支援が安易に拡大しかねないと懸念も出そ

たのを受け、近く担当室を新設する方針を固めた。資機材の提供やインフラ支援

に囲む。当初は数人規模でスタートし、将来的には担当者を増員して課への格上げも視野に入る。同省幹部は「OSAを外交のツールとして最大限活用するため、外務省の態勢を整備する」と話した。「O-SA室(仮)

DA)とは別の枠組みの無償資金協力。二二年に閣議決定した国家安全保障戦略に導入方針が明記された。

政府は、日本にとって「安全保障上の能力強化を支援する」として、「O-SA室(仮)」は、安全保障などをシアなども想定して沿岸監視用レーダーや通信装置

などを供与する方向で作業を進めている。

意義がある國の軍」を対象としている。

安保分野で連携を図る同志国について、政府は「定義は確立していない。外交課題について目的を共にするかどうか」という観点から

個別に判断する」(松野博一官房長官)との説明などめている。